

報道関係者各位(参考情報)

2021年5月27日

日越、栄養学発展の架け橋に

神奈川県立保健福祉大学大学院の留学生

総合研究所で雇用、臨床研究など立案

株式会社ファンケルはこのほど、ベトナム人留学生のチャン・グエン・アンさんを雇用しました。アンさんは神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科に在籍しており、栄養学や公衆衛生学を学んでいます。当社では専門分野を生かし、総合研究所で臨床試験のデザインなどを行い、学業との両立を図ります。同大学は栄養学の分野でベトナムのハノイ医科大学と提携しており、アンさんには今後、日本とベトナムの栄養学が共に発展するための架け橋となることを期待しています。

◆コロナ禍で苦境の留学生を支援

今回、当社で雇用したアンさんは2017年7月にハノイ医科大学栄養学部を卒業し、現地の病院で栄養士として勤務。その後、最新の栄養学の知見を得るため、2019年4月に神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科に第一期生として入学しました。今年3月に同研究科を終了し、公衆衛生学の修士を取得しています。

今年4月には、勉学を極めるため、同大学院の博士過程に入学し、今後3年間にわたり、日本での学業を続け、さらに専門的な知識を習得する予定です。こうした学業の傍ら、生活を支えるための収入も必要となります。昨年来のコロナ禍で、ベトナム人留学生の就労環境も悪化しており、アルバイトなどで生計を立てるのが難しくなっています。こうした背景もあり、同大学から留学生の当社での就労の依頼があり、今回アンさんを雇用することとなりました。



アンさん(右)に社員証を渡す総合研究所炭田康史所長

◆臨床研究の計画などを立案。サプリの必要性の解明も

アンさんは総合研究所ヘルスサイエンス研究センター臨床研究グループに所属し、今後臨床的な調査研究および計画の立案などを行ってまいります。具体的には、サプリメントの臨床試験のデザインやこれまで発表された研究論文の体系的な整理などを行ってまいります。特に中国も含む東南アジア各国における食習慣や生活習慣、遺伝的な背景にかかわる調査と疾病予防や健康増進に向けたサプリメントの必要性の解明にも期待しています。今後、大学院を卒業する2023年3月まで勤務してもらう予定です。神奈川県立保健福祉大学は、栄養学の分野で国際的な協業を進めており、2014年度からハノイ医科大学における栄養学科創設に向けた支援などを行ってきました。アンさんは日本での学業を終え、ベトナムに帰国後は同国政府の栄養学をリードする役割が期待されています。当社は、アンさんに日本とベトナムの栄養学が共に発展していく架け橋となることを願っています。

チャン・グエン・アンさんのコメント

学業と研究業務、どちらにも最善尽くす

大学院での学業と会社での研究業務を通じ、自身を高める機会をいただき、心より感謝しています。私は株式会社ファンケルから奨学金の支援を受け、2019年から神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科にて勉強を続け、2021年3月に修士課程を修了しました。4月からはファンケルの研究機関にて業務を行いながら、尊敬する先生方が、いつも素晴らしい授業やご助言をくださる同大学の博士課程にて、さらなる高みを目指して学業に励んでいます。

皆様への感謝の気持ちを胸に、大学での学業およびファンケルでの研究業務のどちらにも最善を尽くすことを約束します。



同僚となる総合研究所の社員にあいさつ後、談笑するアンさん(中央)



神奈川県立保健福祉大学大谷泰夫理事長のコメント

「未病」の国際化への先駆けに

神奈川県は黒岩知事の提唱の下、新しい健康観「未病」を掲げ、人生トータルの健康生活の創造を目指しています。神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科は、このための人材育成と研究を担って2年前に発足しました。ヘルスイノベーションは必然的に国際展開に結びつくものであり、当初から留学生の受け入れを進めましたが、ベトナム出身のアンさんはその1期生で、この春修士号を取得し、続けて博士号取得を目指しています。本大学はかねてから中村学長がベトナムにおける栄養学の確立に尽力し、これからは急速にこの国での栄養政策や食生活の改善が展望されます。開学以来のファンケル社の留学生支援に心から感謝申し上げるとともに、今回のご縁がきっかけとなって、将来に向けてのさらなるうねりをもたらすことを期待します。

本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先

株式会社ファンケル 経営企画室 広報部 野田靖

TEL:045-226-1230 FAX:045-226-1202 / <https://www.fancl.jp/>